

より充実した東北応援ツアー

1978年 経営学部卒業 竹村 公一

昨年に引き続き参加させて頂き、今回も多くの方々との出会いがあり、とても有意義な2日間でした。

卒業生の佐々木ご夫妻は仙台市で笹かま鉾の製造・販売を営まれていましたが、震災で工場が壊滅した中で、非常にご苦労されて再建を果たされました。「福興」に取り組んでおられることをお伺いし、同窓であることをとても誇りに思いました。また南三陸町の語り部の方から、津波が来た時に最後まで防災センターにとどまり、放送で避難を呼びかけて亡くなられた女性職員のことを詳しくお伺いし、考えさせられました。

今回は海岸沿いをバスで移動することが多くあり、たくさんの被災地を目にしました。かつて国道45号線沿いには、大量の撤去された自動車が3～4台の高さに積まれていましたが、すっかり撤去されていました。震災から1年後に家族と訪れて宿泊した気仙沼にも立ち寄り、ところであり、とても懐かしく思いました。一方、当時と殆んど変わっていない町の様子に、復興の難しさ、大変さを改めて感じました。個人的には気仙沼のおみやげである「ホヤぼうやサブレ」を「気仙沼Pホテル」の売店で購入することができ、大満足でした。気仙沼で製造している一部の店でしか手に入らないからです。

また、サッカーの元日本代表選手からのサプライズのプレゼントを頂いたほか、現地の方から心温まるおもてなしを受けました。

仙台では前回の東北応援ツアーに参加された「Yさん」と1年ぶりに再会することができ、とても懐かしく思いました。

東北応援ツアーでは、世代、学部、地域を超えて様々な人が集まり、多くの出会いがあります。正に立命館大学の総合力を発揮したものです。

震災で被害を受けた多くの建物がなくなっていくのは歓迎すべきことだと思います。しかし、歴史を後世に伝えていくためには、今のうちに現地を見ておく必要があります。そういう意味でこのツアーの果たす役割は重要で意義深いものがあります。

このようなツアーを企画、実行された校友会、お世話を頂いた被災地の方に感謝するとともに、これからもこのようなツアーが企画され、震災の記憶の風化防止に貢献できることを願うばかりです。

以上